

四国民放クラブだより

四国民放クラブ役員会開催

1月16日(水)四国放送で「平成30年度第1回四国民放クラブ役員会」が開かれ、四県の民放クラブ役員12人、主幹局の四国放送岡本取締役、事務方3人の計16人が四国放送役員会議室に集った。

会議は宮島理事長の進行で進められ、「四国クラブ総会」をいつ、どこで行うか、その時の議案などを話し合った。佐藤会長の挨拶の中にもあったが、平成31年は躍動の年。選挙の年で、天皇陛下のご退位の年でもある。昭和から平成への30年前とは異なり、今回はおめでたいが、各人が30年前のそれぞれのポジションでの記憶を改めて蘇らせた。

総会は例年通り4月に開催し、その時に「春のゴルフ部会」なども行ふことを決めたが、会員の減少に対する検討と収支改善をどうするかなどを提案することが出された。《その他、具体的事業計画案・予算案などは控える》

役員会が終了し、会長のおごりで、列車、バス時間まで雑談をしたが、同輩、先輩、大先輩の今の

元気な方は年末の海外ゴルフで9日連続ラウンドもという驚き話もあれば、配偶者を亡くし以前の活発さが消えている方の話なども昔を思い出しながら少し複雑な思いの徳島日帰り旅だった。



四国放送での四国民放クラブ役員会

寺田寅彦の銅像

長田修身 (RKC)

高知城の東100メートル程の所に新図書館複合施設「オーテピア」が開館して約8か月、幅広い世代の利用者でにぎわっている。

同館は全国で初めて県と市の合築で誕生した図書館で、中四国最大級の収蔵能力205万冊を誇る

「オーテピア高知図書館」、オーテピア高知声と点字の図書館、

プラネタリウムを備えた「高知みらい科学館」の3館が同居している。「オーテピア」開館に合わせ、敷地内の北東角に寺田寅彦の銅像も建てられた。寺田寅彦記念館友の会会長で、銅像を建てる会事務局局長だった山本健吉氏によると、2011年3月発生の「東日本大震災」以降、寅彦の残したと言われている「天災は忘れられた頃来る」という警句が改めて注目され、行政などの機関が減災に向けての対策を進め始めたことや、何年前かの「日本の科学者」人気投票で、寅彦の弟子の中谷宇吉郎が6位、恩師で文化人切手にもなった寅彦が16位に驚き、彼の業績等の情報発信のためにもということなどが銅像建立になっていったこと。

山本氏らは設置場所も寅彦にふさわしい場所として同所に白羽の矢を立てて各方面にお願いに回り、開館日に銅像除幕式も行われた。同所は寅彦の母校高知県尋常中学校(現高知追手前高校)の目の前で、高知観光で人気の日曜市・ひろめ市場のすぐ傍でもある。

高知市公式ホームページが寺田寅彦記念館友の会公式ホームページ

の

ジの「銅像説明・音声」で、科学者としても随筆家としても稀有な才を示した寅彦の簡単なプロフィールが流れる。

山本氏と話していて、銅像から徒歩15分程の所にある小津神社には、寅彦が青年時代に肺を患い父と病氣平癒の願掛けをして、祈願成就で奉納した石灯籠もあり、そこから更に約30分で両親、寅彦、奥さん達の墓地去りつくことも分かった。

寅彦生誕140年の記念すべき年(平成30年)に銅像が建立されたこともあり、友の会でも「オーテピア」にある多くの関連資料が読まれ、近隣のゆかりの地に多くの人が訪れるなどして郷土の偉人の知名度が高まることを期待している。



【正面下は若い研究者によく語りかけていた言葉。左下「天災は忘れられた頃来る」が彫られている】